

写真ワークショップの活動紹介・Vol.1
「九保大の学生と延岡の当事者のふれあい散策フォト」

毎年、九保大で講話をする中で、以前から担当講師が写真ワークショップを学生と当事者で実施できたら当事者支援というものを体験できるし、当事者とふれあうことで理解にもつながるということで実現できたらいいのに、ということをお話しておられたので、今年は是非それを実現したいということで、7日に九保大の学生と延岡の当事者とのふれあい交流を写真ワークショップを通じて実施する計画が決まり、関係機関に呼び掛けたら当事者10名ほど参加があり、学生6名が参加するので、全体で16名の参加があり、障がい者相談室・とびらに10時に集合して近くの街中を学生と当事者が一緒に語り撮りながら散策する「ふれあい散策フォト」を行うことになりました。

また、地域のよさを写真を通して発見することも狙いの一つなので、それぞれの感性で新たな街を発見してくれるものと期待しながら段取りしているところです。

その、「ふれあい散策フォト」の事例を含んで「家族の思いと当事者支援」というテーマで20日、九保大の教室で社会福祉学部の4年生に講話をすることになっています。

今回は、前段で写真ワークショップを学生と当事者参加で実施することで、事例を通してより実践に即した話が20日の講話でできることは、この計画を実施することを了承してもらった担当講師に感謝する次第です。

これも、人との出会いによって企画が実現でき道が切り開かれていくことを体験させてもらっているのだと思っています。

今日は、九保大の学生と延岡の当事者との「ふれあい散策フォト」を実施してきました。

写真をツールにして撮ったり語ったりしながら皆と同じコースを散策するという写真ワークショップです。

梅雨に入り天気が気になりましたが、晴れ男がいたらしくいい天気の中18名で集合場所である「障がい者相談室・とびら」に集まり、写真撮影に関してレクチャーして出発しました。

まず、とびらの周辺を歩いて公園に行き、大瀬川に向かって歩き、あがた橋を渡って川の向かいに行き、引き返すコースでした。

それぞれ初対面でしたが、天気のように明るく楽しくしゃべりながら散策しながら写真を撮って楽しみました。

とびらに帰って、鑑賞ミーティングといっているのですが、撮った写真を見ながら講師が撮った方に色々聞きながら会話を楽しむという方法で進めて行き、最後に撮った中で一番気に入った写真を選んでもらうことで終了という流れになっています。

写真を観ながら聞いて行くと皆さん写真を撮ったときにそれなりに思いがあるのがわかり、そのような気持ちでこの写真を撮ったのかと言うことが周りの皆にもわかって理解につながります。

写真は、1～4枚は今日のワークショップの雰囲気です。それと、5～6枚は学生さんが1枚目にとった写真を掲載しました。なぜか、一般的な美観でない綺麗でもな

く美しいものでもなく、自分にこだわって撮ったところに脱帽です。

学生のコメント

5、コンクリートの道に雑草が生えているところに興味を持って撮った。

6、幼少のときの思い出の滑り台を連想して撮った。



1



2



3



4



5



6